



「北海道マリンビジョン21コンテスト」 2019受賞取組の紹介

国土交通省北海道開発局農業水産部水産課

「北海道マリンビジョン21」は、北海道が有するわが国の水産食糧供給基地としての役割を将来にわたり守り育てていくため、地域の資源を活かしつつ、多様な主体の連携・協同により活力ある北海道の水産業や漁村の実現を図るための目指すべき姿を定めた長期構想として、北海道開発局が策定したものです。

この目指すべき姿の実現化に向けて、漁業者・住民・関係団体・行政等が協力しながら、地域固有の資源を活用しつつ、水産業を核とした地域振興の具体策となる「地域マリンビジョン」が全道30地域で策定されています。

地域マリンビジョンを策定した市町及び漁業協同組合は「北海道マリンビジョン21促進期成会」を設立しており、平成20年度から毎年、各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた取組を表彰する「北海道マリンビジョン21コンテスト」を開催しています。

2020年2月に開催された「北海道マリンビジョン21コンテスト2019」では、平成31年1月から令和元年12月までの各地域マリンビジョンの取組を審査委員会で審査し、最優良賞1地域、優良賞2地域、奨励賞2地域を選定しました。以下に地域と受賞した取組を紹介します。

なお、優良賞は「他地域への波及や手本となり、特に持続性が期待される取組を実施した地域」、最優良賞は「優良賞のうち、最も優良と評価されるもの」、奨励賞は「地域マリンビジョンに計画された取組であるが、発展途上のものであり、支援を受けることでその発展性や持続性が期待される取組を実施した地域」となっています。



受賞地域位置図

○最優良賞「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」 ～地方講演会による情報発信～

根室地域（歯舞地区）は、根室半島の先端部に位置し、刺網^{*1}、サケ定置網、採藻漁業などの沿岸漁業の拠点です。

当地区では、「渚泊^{*2}推進事業」、はばまい昆布しょうゆや金たこ等の「水産物のブランド化」、人工地盤と一体となった衛生管理型市場の新設等の「衛生管理対策」等、様々な事項に先駆的に取り組んでいます。歯舞地域では、有識者からの「これらの取組を地域だけに留めるのではなく、全国の^{けんいん}牽引役として積極的に道内外に発信すべき」との助言を踏まえ、令和元年是、教育機関や漁協等、全道・全国11箇所での講演会を開催する等、広域的な視点をもって、積極的に情報発信を行いました。

これにより、講演依頼が増加するとともに、全国的にも「歯舞」の知名度・認知度が向上し、歯舞漁港での各催事の来場者数の増加に繋がりました。

この取組は、北海道のみならず、全国の漁村の活性化に寄与する取組として、高く評価されました。



東京海洋大学においてブランド化への取組についての講演

○優良賞①「ウトロ地域マリンビジョン協議会」～鮭、日本一のまちPR～

ウトロ地域は、知床半島のオホーツク海側に位置し、サケ・マス定置網漁業を中心とした沿岸漁業の拠点です。

当地域では、知名度や魚価向上のため、「鮭、日本一のまち」のPRに継続的に取り組んでいます。ウトロ漁港では人工地盤を活用しサケの水揚げ見学コー

^{*}1 刺網（さしあみ）

海中に張った網の網目に刺さったり絡まったりした魚を捕獲する漁法。

^{*}2 渚泊（なぎさばく）

漁村地域における滞在型旅行のこと。

^{*}3 磯根（いそね）漁業

海藻が繁茂した海域でウニやアワビ、コンブなどを捕る漁業。



ウトロ鮭テラスからの水揚げ見学の状況

作成したウトロ鮭テラスのポストカード

スを設置するなど、観光資源化を図ることとし、全国から愛称を募集し、令和元年5月に名称を「ウトロ鮭テラス」に決定しました。ポスター、カード、ノボリ等を活用し、様々な媒体において「ウトロ鮭テラス」、「鮭、日本一のまち」のPR活動、サケの水揚げ見学の受入れや地元水産物の販売等を通じて、地域の魅力発信を行いました。

これにより、道の駅「うとろ・シリエトク」で実施したアンケートでは、鮭日本一のまちの認知度が6割以上となるなど、観光客等の認知度が大きく向上しました。

この取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となり、販路拡大にも資するものとして高く評価されました。

○優良賞②「積丹地域マリンビジョン協議会」～ウニと藻場の循環型再生産～

積丹地域は、積丹半島の北側に位置し、周辺海域で操業する道内外のイカ釣り漁業のほか、刺網及び磯根漁業^{*3}等の沿岸漁業の拠点です。

当地域では、ウニの深浅移植等の磯焼け^{*4}対策に積極的に取り組んできましたが、毎年大量に発生するウ



ウニ殻を施肥材として活用したコンブ（右側は従来コンブ：生長の違いが顕著）

^{*}4 磯焼け（いそやけ）

沿岸の浅海域で海藻または海草が繁茂しなくなる現象。

ニ殻が、農地での肥料として有効であることに着目し、ウニ殻を施肥材として、コンブ養殖に活用する取組を行いました。

これにより、ウニ殻の成分を染み込ませたコンブ養殖ロープは、通常のロープと比較して1本あたりのホソメコンブの生産量が3.8倍になる成果が得られました。

この取組は、【ウニの加工⇒ウニ殻の再利用⇒ウニ殻の餌となるコンブの成長促進⇒ウニの身入りの安定】というサイクルであることから、漁業者自らが行える簡易な方法であり、磯焼けや漁業資源の減少が進む日本海において、先駆性があり、漁業生産の向上に寄与する省力的かつ循環型な取組として高く評価されました。

○奨励賞①「雄武地域マリンビジョン協議会」～つくり育てる漁業の推進～

雄武地域は、オホーツク海沿岸の中北部に位置し、ホタテガイ底びき網漁業やサケ定置網漁業を中心とした地域水産業を支える拠点です。

当地域では、漁港整備で創出された静穏水域を活用して、コンブ場の創出とウニの養殖をあわせて行っているところであり、歩留向上のため、移植作業を毎年行っています。ウニの採取は人手を要することから、省労働化を図るため、大量のコンブを入れたザルを投入し、ウニをザルへ誘導するという試験的な取組を行いました。

これにより、2日間放置した10枚のザルにおいてウニが合計1,300個体以上採取するとともに、個体の重量測定及び年齢査定も効率的に行うことができました。今後は、引き揚げる際の重量を考慮し、適正なコンブ量の調査を行うなど安定的な漁獲が出来る体制づくりに取り組む予定です。

この取組は、省労働化や漁港整備で創出した水域における水産物の増産効果を高めるものであり、他地域



ウニを誘導するために考案された養殖コンブを入れたザル（ウニザル）とウニの採取状況

への波及、発展性や持続性が期待される取組として評価されました。

○奨励賞②「遠別地域マリンビジョン協議会」～世界初の新製品！ミズダコ原料の「タコソーセージ」開発（遠別農業高校との連携）～

遠別地域は、日本海北部に位置し、ホタテガイ養殖、小型定置網、刺網等の地域沿岸漁業の拠点です。

当地域では、地元水産物を使用した新たな特産品の開発が課題であり、タコ型のウインナーはあるが、本物のタコを使用したソーセージは無いとの発想から、遠別農業高校と連携して、世界初のミズダコを原料とした「タコソーセージ」を開発しました。今後は、令和2年4月にオープンした道の駅「えんべつ富士見」における販売やふるさと納税の返礼品としても考えており、積極的に販売・PR活動を行う予定です。

この取組は、独創的であり、加工品開発を通じて、地域資源の掘り起こしや、地元高校生の発想を大切に、地域の方が漁業に関する知識・愛着を得る良いきっかけとなるなど、地域生産の向上や人材育成に期待されるものです。関係者の一層の連携により発展性や持続性が期待される取組として評価されました。



開発したタコソーセージ

地元高校生による製造作業の様子

今回受賞された取組はいずれも先進的かつ独創的であり、他の地域の取組にとって大いに参考になると思われます。

北海道開発局としては、今後とも地域マリンビジョンの取組のフォローアップを支援し、水産基盤整備を通じて各地域を支援していきます。これにより北海道マリンビジョン21で目指す将来像の具現化に資する様に、関連する市町や漁業協同組合、関連団体と力を合わせてよりよい水産業と漁村地域を目指して参ります。